

臨床研究に関するお知らせ

宮崎大学医学部病理学講座 構造機能病態学分野では、下記の臨床研究を実施しています。皆様には本研究の趣旨をご理解いただき、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

研究課題名：大動脈硬化病変におけるビルビン酸合成酵素の発現と分布

1. 研究の概要

大動脈は、心臓から送り出された血液が最初に通る、人体の中でも最も太い血管です。大動脈瘤は、この大動脈が瘤（こぶ）のように病的に膨らんだ状態を指します。大動脈壁が弱くなっている部分が膨らんでいると考えられています。その理由は、完全に解明された訳ではありませんが、動脈硬化、高血圧、ストレス、脂質異常症、遺伝などの様々な要因が関連していると言われています。症状は、ほとんどなく、他疾患の精査中に偶然発見されることがほとんどです。気づかれないままに大動脈瘤が大きくなって破裂すると、胸部や腹部に大出血し、危険状態に陥ります。

瘤の根本的治療は、血管手術のみで、内科的治療や予防は確立していません。これまで色々と研究が進められています。血管構成細胞の代謝変化は炎症反応や低酸素環境と関連し、動脈硬化の進行や血管壁の血栓性に関与することが報告されています。これまでの研究で、大動脈瘤径と血液中のビルビン酸濃度の関連を見出しましたが、大動脈硬化病変にビルビン酸を合成酵素が存在するかどうかは明確ではありません。

本研究では、大動脈の動脈硬化病変にビルビン酸を合成する酵素の存在と、動脈硬化の進行との関連を明らかにします。

【研究責任者】

宮崎大学医学部病理学講座 構造機能病態学分野 山下 篤

2. 目的

本研究では、ビルビン酸の合成酵素の細胞局在や、その発現の程度と動脈硬化の進展との関連を明らかにすることを目的とします。

3. 研究実施予定期間

この研究は、以下の期間において実施されます。

研究機関の長による実施許可日から 2028 年 3 月 31 日まで

4. 対象者

2014 年 1 月～2024 年 3 月に本院血管外科に入院され、血管手術の治療を受けられた方が対象となります。

5. 方法

対象となる方のカルテ情報から、大動脈疾患で血管手術となった方を検索・抽出し、患者情報(基礎疾患名)や組織診断のため作製された組織ブロックを利用させていただき、これらをもとに免疫組織化学を行い、目的蛋白の発現を検討します。

試料・情報の管理責任者は、宮崎大学医学部病理学講座 構造機能病態学分野の中村恵理子です。

6. 費用負担

この研究を行うにあたり、対象となる方が新たに費用を負担することは一切ありません。

7. 利益および不利益

この研究にご参加いただいた場合の利益・不利益はありません。参加を拒否された場合でも同様です。

8. 個人情報の保護

研究にあたっては、対象となる方の個人情報を容易に特定できないように、数字や記号などに置き換えて使用いたします。

9. 研究に関する情報開示について

ご希望があれば、研究計画および研究方法についての資料を閲覧することができます。ご希望がある場合は、下記連絡先へ遠慮無く申し出てください。ただし、個人情報保護や研究の独創性確保(あるいは、特許に関わる事象)に支障のない範囲内で情報開示を行います。

10. 研究資金および利益相反について

この研究に関する経費は、研究責任者が所属する診療科の研究費で賄われます。

本研究は、企業および団体等と経済的な関与がないため、申告すべき利益相反はありません。

注1) 臨床研究における利益相反とは、研究者が当該臨床研究に関わる企業および団体等から経済的な利益(謝金、研究費、株式、医薬品・医療機器、検査・解析サービス等)の提供を受け、その利益の存在により臨床研究の結果に影響を及ぼす可能性がある状況のことをいいます。

11. 研究成果の公表

この研究で得られた研究成果を学会や医学雑誌等において発表します。この場合でも個人を特定できる情報は一切利用しません。

12. 参加拒否したい場合の連絡先

この研究に参加したくない(自分のデータを使ってほしくない)方は下記連絡先へ遠慮無く申し出てください。しかしながら、データ解析後、もしくは学会等で発表後は途中辞退することができない場合もあります。

13. 疑問、質問あるいは苦情があった場合の連絡先

この研究に関して疑問、質問あるいは苦情があった場合は下記連絡先へ連絡をお願いいたします。

宮崎大学医学部病理学講座構造機能病態学分野

山下 篤

TEL 0985-85-2810(内線 2136)